

# 新たな感染症とともに



## 新学期からのマスク着用について 「子どもたちの日常を取り戻そう」

文部科学省は、4月1日以降の新学期におけるマスク着用の考え方について、「学校教育活動の実施に当たっては、マスクの着用を求めないことを基本とする」という方針を示しています。

3月10日に開かれた富山市立学校新型コロナウイルス感染症対策検討会議では、本市の幼稚園や小中学校においても同様に、新学期から原則マスクを外した従来の学校生活を送れるように進めていくことで、教育、保育、行政、医療、PTA等の各委員の思いが一致しました。

これまで子どもたちにマスクを着用させてきたわれわれ大人が、子どもたちが安心してマスクを外せるようにしてあげる必要があります。

富山市立学校新型コロナウイルス感染症対策検討会議



## どうしてこれまで世界中でマスクをしていたのですか？

新型コロナウイルス感染症では、無症状の感染者からも感染が広がる可能性が指摘され、「無症状でも全員がマスクをする（ユニバーサルマスクング）」が感染対策のひとつとして各地で実施されてきました。富山市では「小学生以上はマスクの着用を推奨するが運動時や登下校時等では外す、幼稚園では着用を推奨しない」が基本的な対応でした。

新型コロナの流行が始まって3年が経ち、ウイルスの変異による特性の変化、ワクチンの開発を含めた医学の進歩などにより、ユニバーサルマスクングを終了してもよい局面になってきました。世界的に見ると1年前からマスクは必要な場面で着用するように変化してきています。日本では3月13日からマスク着用は「個人の判断が基本」の方針となりました。



## マスクの効果はどのくらいあったのですか？

学校でのマスクの効果に関する研究を紹介します。

マスク着用のルールを撤廃した学区と、マスクの着用を続けた学区で、児童生徒の感染者の増加を比較した研究では、マスクを着用しても感染のピークは同じように訪れ、感染者数の差は

15週間(3~4か月)で1,000人当たり39.9人でした。

子どもたちには、適切なマスクの着用という点で、ばらつきがありその効果も不安定です。コミュニケーションや発達への影響も検討されていますが、「影響あり」「影響なし」の両方が報告されています。実際の発達への影響は、一定期間が経過しないと分からないことが多いと思われます。

一般社会においても、マスクの効果については多くの研究がされていますが、相反する研究データもあり、どの程度効果があるのかは、いまだに議論が続いています。地域の感染状況や年齢等、さまざまな要因があり、評価が一定しないものと考えられます。適切なマスクの使用方法は、実はなかなか専門的で、大人でさえも微妙な場面をよく見ます。とりあえず着用するだけでは、思ったほどの効果は得られず、研究データにもばらつきが出てしまいます。管理に慣れた医療機関、高齢者施設などに重点を置いたマスクの使用が効果的であると思われます。

# 4月1日からの学校生活、どう変わる！？

※園児・児童生徒や教職員については、マスクの着用を求めないことが基本となります。できる範囲で適切な換気を行いましょ。

## 登校前の検温は必要ですか？

日々の健康状態を把握することは大切なことですが、検温の結果を記録したり、提出したりする必要はありません。各家庭で子どもの体調をみて評価し、体調不良時は無理なく休養させることを継続していきましょう。

## 体育や音楽等の授業はどうなりますか？

体育や音楽の授業では、これまで制限がかかっていた活動もコロナ禍前のように戻し、たくさんのことを学べるようにしていきます。それ以外の教科でも、従来どおり対面式のグループワークなどを取り入れて学習していきます。授業を行う先生もマスクを外すことを基本とします。



## 給食の時間はどうなりますか？



富山市内の学校(園)では、これまでも距離がとれる場合や小さな声で話す場合などには向かい合って食べてもよいとするなど、コロナ禍でも段階的に給食時のあり方を緩和してきました。新学期からはコロナ禍前のように、机を向かい合わせにしたり、子どもたち同士が話をしたりしながら楽しく食事ができるようにしていきます。

## コロナ禍で子どもたちに与えた影響…

先日の検討会議では、教育、保育、行政、医療、PTAなど各分野の委員からコロナ禍での生活変化が子どもたちへ与えた影響を懸念する声が上がりました。



- ・ マスク生活が長くなり、子どもたちのコミュニケーション能力の発達に懸念がある。
- ・ 非認知能力の欠如があるように思う。
- ・ 授業で答えるときの声が小さい上に周囲がそれに無関心である。
- ・ 不登校の増加、拒食症の増加が顕著である。
- ・ マスクによって子どもたちの表情が読み取りづらく、結果として虐待やヤングケアラーなど悩みを抱えている子どもの表情を読み取る機会を失っている。

適切な感染対策は重要ですが、それが過剰であると様々な弊害をもたらします。子どもたちが子どもたちらしく過ごすことの重要性もまた考えていかななくてはけません。

これまでに発行したリーフレットは、学校(園)や市学校保健課のHPで見ることが出来ます。リーフレットの内容は、発行時時点のものです。

【事務局】富山市教育委員会 学校保健課(TEL 443-2136)